

京都大学国際高等教育院

紀 要

第 6 号

論 文

- 英語をリンガフランカとした文化概念に関する異文化間学習
日独の大学生によるオンライン交流
..... デビッド ダルスキー, ルプレヒト マティグ 1

実践報告

- 大学教養・共通教育における機械翻訳活用型英語ライティング授業の成功の
ための諸要因——制度・言語能力・原理的理解・教材・フィードバックの
5つの観点から——..... 柳瀬 陽介 19

- 修了研究テーマから見た日研生の日本に対する関心事と日本研究へのアプローチ
——15 大学日研生の研究テーマ分析を基に——..... ルチラ パリハワダナ 51

- Kyoto iUP におけるチューターによる就学支援 (I)
——予備教育課程におけるオフィスアワー (ホームルーム) 活動——
..... 岡田 幸典, 佐々木 幸喜 71

- Kyoto iUP におけるチューターによる就学支援 (II)
——学士課程におけるチューターセッション——
..... 佐々木 幸喜, 立田 有香, 岡田 幸典 93

研究ノート

- 日本語教員養成講座受講生の教師ビリーフに関する予備的考察
..... 阿久澤 弘陽, 北 琢磨, 申 知元 107

調査報告

- 京都大学におけるアカデミック・ライティング新統一教科書の編纂
ルブラン キャサリン, スチュワート テイモシー, リーズ デイヴィッド,
マッカーシー ターニャ, スキッパー セラ, 柳瀬 陽介, 和泉 絵美,
吉田 亞矢, ダルスキー デビッド, 金丸 敏幸, ミルン ダニエル,
ライランダー ジョン, 笹尾 洋介, 横森 大輔..... 119

- 2022 (令和 4) 年度 2 回生進級時アンケート報告書 141

- 投稿要領 203

2023 年 3 月

『京都大学国際高等教育院紀要』投稿要領

平成 29 年 4 月 26 日 教授会決定

令和 4 年 6 月 29 日 教授会改正

〔名称及び目的〕

- 1 国立大学法人京都大学国際高等教育院（以下、「教育院」という。）が編集及び発行する教育・研究誌を『京都大学国際高等教育院紀要』（以下、「本誌」という。）と称する。
- 2 本誌は、教育院の教員の教育・研究及び教育院が企画・実施する教養・共通教育に係る活動を公表することを目的とする。

〔編集〕

- 2 本誌の編集は、教育院教授会において選出された編集委員会において行う。投稿された原稿の採否は、編集委員会が査読の上、決定する。
- 2) 編集委員会に委員長を置き、副教育院長をもって充てる。委員長は、教育院長の指名による。

〔投稿資格〕

- 3 本誌への投稿者は、以下とする。
 - ① 教育院教授、准教授、講師、助教及び助手（特定年俸制教員を含む）並びに教育院長、副教育院長、附属センター長
 - ② 過去に①であった者
- 2) 投稿者は、責任著者（corresponding author）として編集委員会からの査読意見の受取、それに基づく原稿の改訂と再提出など、本誌への原稿掲載に向けて誠実に対応する。原稿に責任著者の氏名を明記する。

〔原稿〕

- 4 投稿原稿は、1に掲げる目的に係るものとし、内容上、他誌に寄稿または現在投稿中のものを除く。
 - 2) 投稿原稿の筆頭著者は、3の①、②に示した者とする。3の①、②に示した以外の者が共著者に含まれる場合は、編集委員会が適当と判断した場合にそれを認める。
 - 3) 投稿原稿は、各号につき、各教員当たり筆頭著者であるもの1編を原則とする。

〔種別〕

- 5 原稿の種別は、論文、実践報告、研究ノート、調査報告、書評その他類似のものとする。その種別は、責任著者の申出によることを原則とする。

〔書式〕

- 6 原稿は、A4版横書きで左右の余白を各35mmとし、和文にあっては文字サイズ10ポイントで44字（1行）×40行、英文にあっては文字サイズ10ポイントで39行とする。
- 2) 原稿の分量は、論文20枚程度、実践報告20枚程度、研究ノート10枚程度、調査報告10枚程度、

書評5枚程度とし、原稿に種別を明記する。前記の数値を超過する場合は、責任著者の申出に基づき編集委員会の協議によりそれを認めることがある。

- 3) 原稿は、執筆言語による①標題、②著者名、③要旨（日本語では400字程度、英語では200語程度）、④キーワード（5つ以内）、⑤本文、⑥参考文献、⑦標題・著者名・要旨・キーワードの英訳又は和訳（執筆言語でないもの）の順とする。
- 4) 提出は、電子ファイルとする。

〔執筆言語〕

- 7) 執筆言語は、日本語又は英語とする。ただし、二次出版の執筆言語については次に定める。

〔二次出版〕

- 8) 本誌は二次出版（secondary publication）を認める。二次出版とは、主たる使用言語が異なる読者層のために、一次出版（primary publication）をその執筆言語とは異なる言語に翻訳した出版である。
 - 2) 一次出版の執筆言語は、日本語又は英語とする。二次出版の執筆言語は日本語又は英語その他とする。
 - 3) 二次出版の著者は、一次出版の内容を忠実に翻訳しなくてはならない。
 - 4) 二次出版の著者は、原稿の最初のページの脚注にその出版が二次出版であることを明記し、かつ、一次出版の書誌情報を記載しなくてはならない。
 - 5) 責任著者は、本誌の同一号に一次出版と二次出版を同時に投稿することができる。
 - 6) 以前に本誌に掲載された一次出版の責任著者は、その二次出版を本誌に投稿することができる。
 - 7) 他誌に掲載された一次出版の二次出版を本誌に投稿することはできない。

〔査読〕

- 9) 査読は、編集委員会が選定した2名の査読者が行う。査読者は一次出版原稿を査読する。

〔校正〕

- 10) 校正は、編集委員会のコメントに基づき、責任著者が所定の期日までに行い、再校までとする。

〔著作権〕

- 11) 本誌に掲載された論文、実践報告、研究ノート、調査報告、書評その他類似のものの著作権は、教育院に帰属する。
 - 2) 教育院は、掲載原稿を電子的な手段により配布する権利を有する。
 - 3) 著者が掲載原稿を自身の著作物に掲載し、又は電子的手段により公開・配信するときは、事前に編集委員会に届出をし、その許可を得るものとする。その場合、当該著者は、号数等を含めて本誌に掲載されたものである旨明示する。

〔募集・締切〕

- 12) 原稿は、毎年5月に募集し、9月末日を提出締切とする。

〔抜刷〕

13 責任著者は、原稿掲載号を3部受け取ることができる。

- 2) 抜刷は、責任著者による実費負担とし、希望する場合、掲載決定後、編集委員会にその旨通知するものとする。

附 則

本要領は、平成29年4月26日から実施する。

附 則

本要領は、令和4年6月29日から実施する。

京都大学国際高等教育院

紀要

Kiyô

The Institute for Liberal Arts and Sciences Bulletin
Kyoto University

第 6 号

発行：2023 年 3 月

編集・発行者：京都大学国際高等教育院

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

TEL: 075-753-9359 FAX: 075-753-7851

<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>

印刷所：中西印刷（株）

Kiyô

The Institute for Liberal Arts and Sciences Bulletin
Kyoto University

Vol. 6

Research Paper

- Intercultural Learning about Cultural Concepts Using English as a Lingua Franca:
Online Exchanges Between German and Japanese University Students
.....David Dalsky, Ruprecht Mattig 1

Survey and Practical Report

- Factors for Successful English Writing Classes Using Machine Translation
in Liberal Arts University Education: Five Perspectives of Curriculum,
Language Proficiency, Theoretical Understanding, Teaching Materials, and Feedback
.....Yosuke Yanase 35
- MEXT Japanese Studies Students' Approaches to Japan and Japonology Research:
An Analysis of Completion Research Titles of Fifteen Universities
..... Ruchira Palihawadana 51
- Tutoring Support in Kyoto iUP (I)—Office Hour (Homeroom) Activities
in the Preparatory CourseYukinori Okada, Yuki Sasaki 71
- Tutoring Support in Kyoto iUP (II)—Tutor Session in the Undergraduate Course
..... Yuki Sasaki, Yuka Tatsuta, Yukinori Okada 93

Note

- A Preliminary Study on Teachers' Beliefs Regarding Students
of a Japanese Teacher Training CourseKoyo Akuzawa, Takuma Kita, Shin Jiwon 107

Survey Report

- Kyoto University's New Unified Textbooks for Academic Writing
Catherine LeBlanc, Timothy Stewart, David Lees, Tanya McCarthy, Sara Schipper,
Yosuke Yanase, Emi Izumi, Aya Yoshida, David Dalsky, Toshiyuki Kanamaru,
Daniel Milne, John Rylander, Yosuke Sasao, Daisuke Yokomori 119
- 2022 Year-end Freshman Student Questionnaire Results 141

- Contribution Regulations** 203

March 2023